

# 横浜市立下和泉小学校

(様式 4-2 : 令和 5 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる教員支援制度  
実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称： <u>学校創立 50 周年プロジェクト</u>					
2. テーマ：4 年 2 組歴史探てい団～下和泉小学校の歴史を伝えよう					
3. 実施教科：総合的な学習、国語、社会					
4. 関連単元：国語「新聞を作ろう」「聞き取りメモのくふう」「パンフレットを読もう」 社会「地域で受けつがれてきたもの」「わたしたちの県のまちづくり」					
5. 実施単元数：総合 50 時間 国語 12 時間 社会 5 時間					
6. 学年	4 学年	7. クラス数	2 組	8. 生徒数	33 名
9. 実施内容 50 周年に至る下和泉小の歴史を支えてきてくださった地域の方や本校卒業生の保護者の方とのふれあいを通して、自分の「ふるさと」への思いをもち、その中で自分たちができることを考えることができるようにする。  別紙 参照 (4-2 歴史探偵団 PDF)					

10. 学習のながれ:

4年2組歴史探してい団～下和泉小学校の歴史を伝えよう

国語の「聞き取り名人になろう」で校長先生に学校の歴史を聞いたね。

50周年記念の航空写真を撮影したよ。学校のことをもっと知

小単元名 下和泉小学校の50年を振り返る年表を作ろう。

○下和泉小学校の歴史を見つめなおすことで、この町・学校の歴史伝えられる活動を考える。

○校長先生の話聞いて、下和泉小学校の歴史を知る。

○校長先生の話聞いて、疑問に思ったことやもっと知りたいことをまとめる。

- ・校長先生の話聞いて、もっと学校のことや町のことを知りたくなつたな。
- ・話を聞いたことをもとにもっと調べて、50年の出来事をまとめたいな。
- ・学校・町・交通・校長先生のことを年表にまとめていくと、歴史が見えてくる

夏休みも、家庭学習で自分の調べたいことをまとめておこ

小単元名 昔から今の下和泉を調べ、未来につなげよう。

○夏休みに調べてきたことを出し合い、もっと知りたいことを整理・分析して調べる準備をする。

○学校・町・交通チームに分かれて、まちに取材に行く計画を立てる。

- ・学校チーム⇒小山材木店の方が下和泉小の昔を知っていると聞いたので、アポイントを取って話を聞きたいな。「あさじろう」の人にも今と昔の違いを聞きたいな。
- ・町チーム⇒最近できた「かけカフェ」や「わくわく食堂」を作った人の思いを知りたいな。通信隊は、昔は米軍の基地だったらしいよ。第六天神社のことも調べたいな。
- ・交通チーム⇒下飯田駅・ゆめが丘駅開発で、遺跡が発見されたらいいよ。昔はどんなところだったのか知りたいな。開発に携わった人に聞いてみよう。
- ・コミュニティーバスEバスことも知ってもらえるよう、町に出て調査しよう。

小単元名 オリジナル記念誌を作って地域・家・学校の人に伝えよう。

○それぞれのチームが調べた昔・今の様子からアンケートをもとに未来予想図を作っていく。

- ・たくさんの人の協力のおかげで、活動ができたね。下和泉の地域ってとてもいいところだな。
- ・これまでまとめてきたことを、10才を祝う会で家の人たちに伝えたいな。
- ・Eバスをもっと知ってもらうためにキャラクターを提案しよう。第六天神社を知ってもらうために立て看板を作ろう。

誰にも下和泉のことを知ってもらえるような劇を作って見せよう。図書館にも記念誌を置いてもらい、みんなに活動を知ってもらおう。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

## 4年2組歴史たんてい団

～大好きな下和泉のまち・学校・交通・施設のひみつを探る1年間の冒険の旅～



下和泉小学校は、今年で五十周年。航空写真を撮影し、国語の授業では、校長先生から下和泉小学の歴史について伺い、まとめる学習をしました。その中で校長先生から、「先生はこの学校に来て3年めだからすべてを知っているわけではありません。もっと知りたいことがあったら自分たちで調べてみてはどうですか。」と、課題を与えられました。そこで、学校のこと、まちのこと、まちの施設のこと、交通のことをもっと知りたいということで、4年2組歴史たんてい団を結成することになりました。

夏休みは自分が知りたいことを友達と探検して調べたり、親や親せきの人に聞いたりして、夏休み明けに伝え合いました。9月には思いが同じ友達とチームを作り、保護者の方にも付き添いのご協力をいただき、授業の中で14か所の場所に出て、事前に子ども達がアポイントを取っていた方にインタビューをしました。

### 調べてわかったことと課題

通信隊チーム A…今の通信隊が地域の人たちにとって犬の散歩や野球ができるいこいの場所であること。

そして、未来の通信隊のアンケートもとって、様々な施設を作ってほしいということが分かりました。

通信隊チーム B…横浜市ふるさと歴史財団の浅見さんから話を聞きました。日本が戦争をしていたころ日本軍の基地で、戦争に負けた後は、米軍の基地になり、その後返還されてみんなの遊び場になっていることが分かりました。

無人販売チーム…下和泉にはいろいろなところにある無人販売のことがわかり、どのように利用しているか調べました。するとスーパーより安いから購入する人や、昔はいろいろな花や果物も売っていたことが分かりました。

お花は今もありました。



あさじろうチーム…きっかけは、学校の近くに前からあって、どんなところか知りたいという思いからインタビューに行きました。分かったことは、お店の雰囲気が明るくて中に入ると、お米のいい匂いがするすてきな場所ということです。もっとみんなに利用してほしいです。

地区センターチーム…自分たちがよく利用する地区センターについて調べました。スポーツや習字ができたり、子どもも大人も安心して立ち寄れることができるわくわく食堂ができたりと素敵な場所であることを再確認しました。



わくわく食堂



古橋の森チーム…古橋の森を守っているいずみの森を育む会の、あまのさん、さかいさん、なかむらさんにインタビューをしました。昔はゴミだらけだった森をきれいにし、みんなに使ってもらいたいという思いを知りました。



いずみの森を育む会の方



校章チーム…開校当時、小学5年生の子が考えたという校章について調べました。「泉」と「富士山」をかたどったそうです。なんと、作者の女の子と早川さんのおじさんは、同級生だったということが分かりました。

キッズ・学校チーム…キッズがなぜできたのか知りたくて指導員の朝比奈さんにインタビューしました。親が働いている子ども達が、安心して過ごせる施設を作ることが必要だということでした。また、今と昔の運動会のちがいを知りたくて、この学校の卒業生のお父さんに聞きました。今と昔では、競技がちがいで、午後までやっていたことがわかりました。

かけカフェチーム…みんなが集まって勉強やお話ができるかけカフェについて調べました。中丸地区の溝部会長さんの話から、昔は木がおいしげり、うっそうとした場所だということがわかりました。今では、アンケートを取った人全員がかけカフェが必要だといっていました。



いせきチーム…横浜市教育委員会の内海さんに、ゆめが丘駅開発周辺でいせきが発見されたと聞いて、どんなものが出来たのか調べました。すると、弥生時代の家のあとや、動物をつかまえる落とし穴、そしてたくさんのお墓が発見されたことがわかりました。昔の人たちも、ここで生活していたことがわかりました。



いせきが見つかった場所は公園にもなっています。

電車チーム…相鉄線が JR や東急とつながったということで、ゆめが丘駅に行き、アンケートをとりました。すると、地域の人たちは、この路線ができて、便利に感じている人が多いということがわかりました。

ゆめが丘ソラトスチーム…今年できるゆめが丘ソラトスがどんなところか知りたくゆめが丘開発地区組合の柏木さんに話を聞きいて調べました。すると、約140店舗入り映画館のことがわかりました。屋上には緑や水辺もあるそうです。

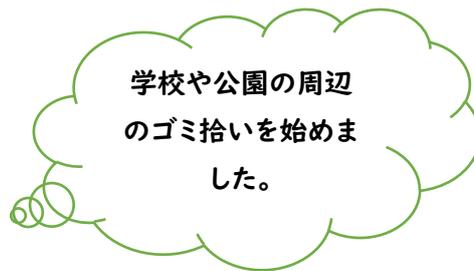


E バスチーム…家の近くを通るEバスについて、どのくらいの人が利用しているのか調べました。ピンクコースの人が多く、緑や水色コースの人は、Eバスを知らない人も多くいることがわかりました。

第六天神社チーム…お正月にお参りに行く第六天神社について、クラスみんなは行ったことがあるか知りたくてアンケートを取りました。すると三分の二くらいの人が行ったことがないということがわかりました。みんなにもっと第六天神社のことを知ってもらいたいと思い、総代の田中さんと安西さんにインタビューしました。すると、鎌倉時代からある古い神社であること、ここに住む神様の名前やここに湧き出る泉があったから「和泉村」という名前ができたこと。そして、それにまつわる伝説があることがわかりました。



これらの13チームは、わくわくの時間で4年1組や土曜参観で保護者の方や、インタビューをした方を招いてポスターセッションをして観ていただきました。活動をしていく中で、中丸地区の会長をしている溝部さんの話や様々な方のインタビューの中で、下和泉地区の「高齢化」「少子化」「地域への参加」などの課題が見えてきました。この活動を進める中で、このまちを過ごしやすい場所にしたいという気持ちが芽生え、放課後学校や公園の周辺を、自主的にゴミ拾いする子も出てきました。



どのチームの活動も下和泉の良さを知り、このまちを大切にしたいと思える活動となりました。その中で出てきた課題、「高齢化」「少子化」「地3域への参加」を解決するために、今まで活動してきた中でどの活動を進めていったらいいか話し合いました。すると、「Eバス」「第六天神社」については、さらに深めて学習していく必要があることに気づきました。そこで、この課題に向き合うためにみんなで調べ、調査・分析し、まとめていくことにしました。

### <第六天神社>

第六天神社は民衆が崇拝してきた神社で、鎌倉時代からあり、古鎌倉街道や大山街道へ向かう人たちがお参りする大切な場所だったそうです。(総代の話から)ここに祀られる神は、面足能命(おもだるのみこと) 煌根能命(かしこねのみこと)の二柱で、人間のように身体と容貌をもった最初の神で、アダムとイブ的な要素をもった神ということを経代の安西さんから伺いました。

また、ここに住む保護者の話も聞く機会がありました。すると、戦争のころは、この神社に防空壕を作って避難をしていたことがわかりました。今もその名残があり、戦後は子ども達の遊び場になっていたそうです。

この神社は、江戸時代(1830年)に社殿を再興し、関東大震災(大正12年)に倒壊してしまいました。そしてこの神社を守ろうとするまちの人の力で2年後に再興しました。このまちに住む人たちにとって第六天神社はとても大切な場所でした。弁天様を祀る弁天池(酒湧の池とも呼ばれる)池があって、「孝子伝説」という伝説が残っています。

子ども達は実際に神社に行って、石にひびが入り、水をためられない手水を見ました。そして、弁天池があったであろう場所は埋め立てられ、工場が立っていることに気づきました。かろうじて、湧水がしたり落ちる川を眺め、「和泉村」の由来の泉はこれなのではという場所を発見することができました。

この現実に、総代の田中さんから、このまちが抱える課題を聞きました。

- ・この神社を守っている総代は3人。
- ・令和5年現在、氏子は72人。高齢化が進んでいる。
- ・少子化が進み、守る若い世代がない。
- ・お参りする人が年々減少している。(コロナ禍もあり)



このようなことから、弁天池を守っていけないと断念し、苦渋選択で埋め立てたことや、手水を直す資金がないことでそのままにしてあることなどを知ることができました。

そこで、この課題を自分たちがどう解決していったらいいか考えました。そして、学校全体に調査し、第六天神社

のことを知っているかアンケートを取りました。すると、知らない人がほとんどだったことがわかり、まず知らせることから始めようということになりました。

- ① 第六天神社のことをポスターセッションで家の人、学校の友達に伝える活動。
  - ② この正月、近くの方は第六天神社にお参りに行こう。
  - ③ この神社の歴史や、お参りの仕方、年中行事などみんなに知ってもらうためにポスターを作ろう。
- ということになりました。

①、②については、自分たちでクリアできました。しかし、③は、神社の許可が必要です。そこで、子ども達は総代の田中さんに許可をもらいに行きました。3人の総代の許可がないとできないということで、田中さんが動いてくださり許可を得ることができました。



もう一つの課題「神社では立て看板を作れない」

そのことについて話し合うと、児童の中から「自分のお父さんなら作れるかもしれない」と言い、頼んでくれました。すると、お父さんから快く引き受けてくださるというお返事をいただき、12月に設計図を作ってくださいました。子ども達は、その立て看板に掲示するポスター作りをして仕上げました。

1月、できた立て看板をお父さんに持ってきていただき、みんなにお披露目をしてくださいました。予想以上に大きく、神社にぴったりな木の立て看板に思わず歓声があがりました。

そして1月25日、お父さんが車で立て看板を運んでくださり、子ども達はスコップを持って、第六天神社に向かいました。総代の田中さん、安西さんに立ち合ってもらい、お父さんの指揮のもと穴を掘り全員で力を合わせて立て看板を立てることができました。立て看板は、通る人に見て立ち寄ってほしいという子ども達の思いから、通りに面して立てました。

子ども達の、壊れた手水が直せるくらいたくさんの人に来てもらいたい、この神社の伝説を知ってほしい、そしてこの第六天神社を好きになってもらいたいという思いがこの看板に込められています。

この活動は、総代の田中さん、安西さん、そしてこの看板づくりに携わってくれた相原さんのお父さんの協力がなかったらできませんでした。この活動をタウンニュースの記者の方が取材し、掲載されました。この活動後、総代の田中さんが、今年のお正月はたくさんの方がお参りに来てくれました。と嬉しそうに語ってくださいました。ぜひ、第六天神社に行き4年2組歴史たんてい団たちの思いを見ていただけると嬉しいです。



## <Eバス>

### Eバスとは

Eバスがコミュニティバスとして誕生したのは、横浜市営地下鉄ブルーラインの戸塚～湘南台間が開通した1999年。地域住民の足だったバス路線が廃止され、高齢化が進む同住宅の住民にとって最寄りのバス停や駅まで歩くのに時間がかかるなど問題点が生じ、人口減少に拍車をかけた。

この状況を変えようと同自治会がEバス運営委員会を発足し、天台観光(戸塚区)から28人乗りのマイクロバスを借り、2002年から11年間、地域住民が主体となり運行してきた。Eバスという名前にはイージー(容易・手軽)、良いという意味を込めた。(タウンニュースから)

Eバスチームは下和泉住宅地区の細い道を走るEバスに興味をもち、どんなバスなのだろうと調べていきました。調べていくと、このバスを下和泉住宅地区に通すために住民の人たちが力を合わせて天台観光に交渉し、実現したことを知りました。そしてバスを利用する人にインタビューして課題を見つけたり、全校にEバスを知っているかアンケートを取ったりしてEバスの認知度を調べました。すると、利用している人は便利けどもっと本数があると便利と感じている反面、路線が通っていない場所の人は、Eバスすら知られていないことが分かりました。

そこで、

- ・Eバスをもっとたくさんの人に利用してほしいから、路線を増やしてほしい。
- ・Eバスの本数を増やしてほしい。
- ・Eバスのポスターを作ってみんなりに知ってもらいたい。



など、課題解決の方法を考えました。そして、この思いを伝えるために、横浜市交通局の荒川さんに、子ども達がアポイントをとり、荒川さんと天台観光株式会社の松尾さん、森さんに自分たちの考えを伝えるプレゼンテーションをしました。プレゼンテーションでは、自分たちが調べたデータに基づいて必要性を伝えました。荒川さん、松尾さん、森さんも、横浜市交通局としての立場、運行会社としての立場でしっかりと子ども達に向き合って実現させるための課題について話してくれました。

- ① 現在運行している、神奈川中央交通の路線との兼ね合い。
- ② ルートを広げるためには、そこに住む住民多数の賛成がないとできない。現在、3年たっても実現できない地域もある。
- ③ 運行するための燃料費。(高騰している)
- ④ 人手不足。(運転する人を増やさないといけない)
- ⑤ バスを1台増やすお金がない。
- ⑥ 1日の乗車数がそれほど多くない。



この6点を踏まえて、路線を広げること、本数を増やすことは難しいということに至りました。

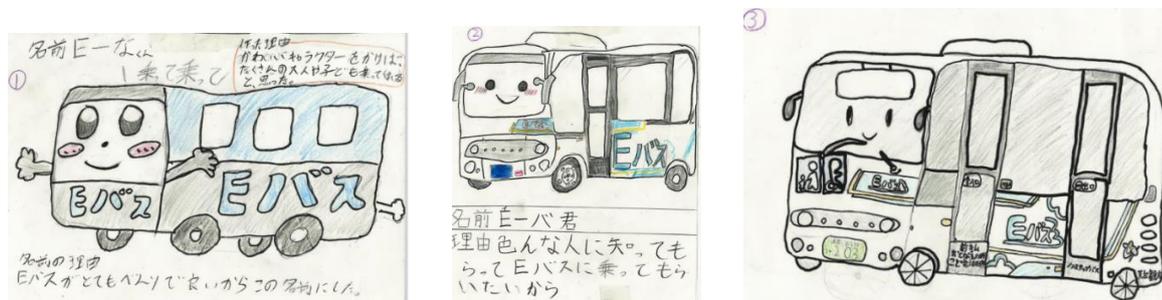
そこで子ども達は自分たちに何ができるか、大人たちといろいろ考えました。そして出てきた案が、

- ・Eバスのキャラクターをつくりみんなに知ってもらうこと。
- ・Eバスのポスターを作り、バスの中に掲示してもらう。
- ・クラスの中にも乗ったことがない人がいたので、Eバスに乗ってEバスツアーをすること。

でした。

これなら、実現可能だということで、早速準備を始めました。Eバスツアーに関しては、天台交通さんが特別に予

備車を出してください、子ども達全員が1台に乗れるよう配慮してくださいました。Eバスのキャラクターは、クラスみんなが描いてきた中から3点選び、その中からキャラクターを1つ天台交通さんに選んでもらうことにしました。キャラクターに選ばれなかったEバスのマスコットも、EバスをPRするポスターに入れて作り、ポスターを仕上げました。



そしてEバスツアーは、クラス全員でルートを考えて決めました。日には2月1日。

<ツアースケジュール>

時間	活動
9:35	学校出発⇒コープ前まで徒歩
9:55	Eバス乗車 コープ前から下飯田駅まで
10:07	下飯田駅下車
10:15	泉ゆめが丘土地区画整理組合に徒歩で向かう
10:30	泉ゆめが丘土地区画整理組合 着
10:40	柏木さんから、ゆめが丘の開発・未来について話を聞く
11:10	泉ゆめが丘土地区画整理組合 発
11:30	ゆめが丘公園着 遺跡チーム 遺跡について説明をする。10分間遊ぶ
11:45	Eバス乗車 下飯田駅⇒コープ前
11:50	コープ前下車⇒徒歩で学校に向かう
12:10	学校到着 振り返り

校長先生からこのEバスを発足させた当時の自治会長の佐久間さんを紹介していただき、ツアーに行く前に佐久間さんに学校へ来ていただき当時のお話をさせていただきました。佐久間さんは、Eバスは利用者が事前に登録し会費を払う方法だったが、路線化により会員登録が不要となり、誰でも乗車可能にすることができるようになったこと、最初は前例がないため苦労したけど、どうしても走らせたいという思いで天台観光に相談し実現したことなど、お話を聞くことができました。



佐久間さんの話



柏木さんの話

プレゼンの時に、バスを運行する松尾さん、森さんもコミュニティバスの路線化というのは珍しく、他地域でも



感想

和は、11000系(そうきん号)に乗りたいです。  
 ソラトスが早くできることをまっています。  
 ソラトスの㊦が見れてよかったです。  
 Eバスツアーで、わたしは、運転している人のことをずっと見ていました。そして、みんなの安全を考えて運転していました。  
 Eバスは人もやさしいバス!

Eバスツアーで、中継がおおソラトスのことや、れっしゅのこと  
 をおしえてもらって、はじめていたことが、いい思い出。  
 うさぎとびたかです。  
 Eバスのこと、昔は、いろんなじょうがあつたけど、ここま  
 やりぬいてきたことが、いい! 思いました。



11月28日  
 天台観光さんが学校でEバスを見せてくれました。

この活動全体のまとめとして、4年2組歴史たんてい団が調査した課題「高齢化」「少子化」「地域への参加」を下和泉の行政はどう考えるかということで、泉区役所の大井さん、下和泉地域ケアプラザの梶山さんに来ていただき、下和泉の未来と自分たちにできることについてワークショップを開いてもらいました。下和泉地区では「高齢者が孤立しないよう」、「子どもや親が交流できるよう」、「障害のある人も社会参加ができるよう」様々な活動をしていることに気づきました。その中で自分たちができることを画用紙にまとめて発表しました。



最後に、これらの活動で下和泉愛あふれる大人たちと出会い、大人たちが下和泉を誰もが安心して住める居心地のいい場所にするために真剣に取り組んでいる姿を見ることを通して、自分たちも下和泉が大好きで、ここをもっと良くしていきたいという思いに気づき、自分たちができることを実行していこうとする思いが高められる学習になったのではないかと思います。将来、この4年2組の子ども達がどのような下和泉のまちをつくっていくのか楽しみです。様々な場面でご協力いただいた皆様には、心よりお礼を申し上げます。

令和6年 3月 4年2組 担任 岸 孝子



立て看板を設置する児童たち

小泉下  
4年2組

## 「地元を学び応援しよう」

### 地元神社に立て看板設置

下和泉小学校4年2組の第六天神社に縁起などの児童が1月25日、地元

を紹介する立て看板を設

置した。

これは総合の時間を利  
用して児童たちが地域の  
歴史や社会課題を学び、  
地元を応援しようとする意  
を込めてきたもの。保護  
者や関係者に話を聞き、  
今回実現したのが「第六  
天神社に看板を立てて、  
第六天神社のことを知っ  
てもらうおう」作戦。

児童らは神社の縁起や  
祭事について調べ、氏子  
など関係者に話を聞いた。  
調べるうちに神社東  
側には弁天池（酒湧池／  
さかわくのいけ）があっ  
た。山岳信仰と関係

があったこと、面足能命  
（おもたるのみこと）、  
博根能命（かしこねのみ  
こと）の2柱が祀られて  
いること、今でも伝えら  
れている酒湧池伝説など  
についても学んだ。

神社の魅力を知っても  
らい多くの人に訪れても  
らおうと立て看板の設置  
を企画。保護者が立て看  
板を作成し、児童が神社  
を紹介する掲示物を作っ  
た。氏子総代の田中正美  
さんは「子どもたちが関  
心を持ってくれうれし  
い。将来も関わってくれ  
れば」と話した。

児童たちは学んだ酒湧  
池伝説を劇にし、授業参  
観で保護者に披露するこ  
とを計画している。

## 11月25日 土曜参観で子ども達のポスターセッションを見ていただいた方のアンケート結果

(子ども達が作ったアンケート用紙に答えてもらいました。)

分かった29人 まあまあ分かった2人 まあまあ分からなかった0人 分からなかった0人

### 感想

- ・みんなよく調べていて、知らなかったことも多かったので、知る良い機会になりました。発表も、ハキハキしていて、とても良かったです。
- ・調べたことをグラフにしたり、クイズにしたりして発表の仕方を工夫していてわかりやすかったです。
- ・小学生の皆が、地域の方にインタビューしたり、資料を調べたりして、発表することが、いい経験だと思います。
- ・古橋の森のことをよく調べていました。下和泉小学校の校章がどういうふうになったかについて、いろいろ調べてあって、おもしろいと思いました。
- ・みんなが、良くいろいろ調べていて、すごいと思いました。
- ・発表が上手でとても分かりやすかったです。
- ・私は、地区センターチームを見ました。みなさん、スポーツや読書を楽しんでいることがわかり、とても勉強になりました。わくわく食堂のことは知らなかったの、今日の発表が聞いてよかったです。
- ・校章のことが良くわかりました。昔のことなのによく調べましたね。ありがとうございました。
- ・様々なことを調べてまとめられていて、とても分かりやすかったです！
- ・学校チームを見ました。とても二人とも、声が大きくハキハキしていてわかりやすかったです。タブレットを使った発表も見やすくてよかったです。
- ・学校チーム・地区センターチームを聞きました。テーマを決めた時、調べた時、まとめて発表する時、とても良く理解をしてやっている事がわかりました。質問をしても、しっかり答えてくれました。学校チームの最後のクイズも楽しかったです。ありがとうございます。
- ・分かった!!みんな堂々としていてすごかった!!
- ・すごく分かりやすかったです。
- ・タブレットを使い、よく調べたと思いました。
- ・4年2組のみんなが一生けんめい説明してくれてうれしかったです。下和泉に住んでいますが、知らなかったことも多くあってあらたに知ることができてよかったです。どうもありがとうございました。
- ・しっかりと歴史を調べられていました。
- ・下和泉の歴史や名所のことがたくさんわかりました。下和泉のまちを歩くときは、みんなの発表のことを思い出すようにします。発表どうもありがとうございました。
- ・とてもよく調べられていて、一生けんめい説明してくれてとてもわかりました。
- ・クラスひとりひとりがしっかり時間をかけてリサーチしているところが良かったです。下和泉のことを知る良い機会となりました。
- ・あさじろうチームの発表を聞きました。私もあさじろうに行ったことがなかったので、店内の写真が見られてうれしかったです。行ったことがある人がみんな便利だということがわかりおどろきました。
- ・それぞれのグループが、いろいろなテーマでたくさんのことを調べたり、町に出て話をきいたりして、じょうずにまとめていると思います。とてもすばらしかったです。たいへんよくできました。

- ・みなさんが下和泉地域をよく調べ、よく知り、とても大切にしようとしている気持ちが伝わってきました。ありがとうございました。
- ・通信隊チーム、男子チームもがんばっていましたが、女子チームのチームワークがすばらしかったです。いせきチーム、とつても下調べをよくして発表もしっかり分かりやすかったです。
- ・それぞれのグループでいろいろ調べてよくまとまっていました。知らなかったこともたくさんあり、教えてもらってよかったです。発表もみんな上手でした!
- ・いせきチームと学校チームをみました。とても上手に話せていて、おどろきました!!よく知っているな、調べたな、と感心しました。
- ・Eバスチームの話を知りました。調べたことを分かりやすくまとめていました。同じ小学校に通っていても住んでいる地区で認知度が違うことにおどろきました。私達にとって当たり前の光景や物や事は人よってちがうと思いました。Eバスをもっと利用しようと思いました。発表おつかれさまでした!!
- ・近くに住んでいても知らないことがたくさんあり、勉強になりました。
- ・あさじろうに入った事がないのですが、1度お店に子どもといっしょにおじゃましようと思いました!
- ・写真を作るととても分かりやすくなっていました。
- ・みんなよく調べていて感心しました。勉強になりました。ありがとう!
- ・とてもよく調べてありました。クイズがあつておもしろかったです。
- ・E バスの発表しか聞けなかったけど、しっかり調べられていたし、アンケートもたくさんとれていました。なにより、発表自体もきんちょうせず、どうどうとしていて、大きな声も出ていました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・E バスを利用していても知らないことが多く歴史たんてい団の話を聞いて E バスのいろいろなことが知れておもしろかったです。クイズ形式にした問題も小さい子供さんも楽しめて良かったと思いました。

※このアンケートに基づいて、活動ができました。有難うございました。

S=NON

